

## 要 約

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : 2,2'-ジクロロヒドラゾベンゼンのヒメダカ (*Oryzias latipes*)  
に対する初期生活段階毒性試験

試 験 番 号 : A 0 2 0 3 7 6

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン: OECD 化学品テストガイドライン No. 210「魚類の初期生活段階毒性試験」(1992年)
- 2) 暴 露 方 式 : 流水式
- 3) 供 試 生 物 : ヒメダカ (*Oryzias latipes*)
- 4) 暴 露 期 間 : 41日間(対照区の孵化率が70%以上になった日の30日後まで)
- 5) 試 験 濃 度 : 対照区, 助剤対照区,  
(設定値) 0.0020, 0.0053, 0.014, 0.038, 0.10 mg/L  
公比; 2.7  
助剤濃度一定; ジメチルホルムアミド; 約0.1 mL/L  
HCO-60; 0.5 mg/L
- 6) 試験液供給量 : 約46 L/容器/日, 試験容器内水量; 約2.5 L  
(換水率; 約18回/日)
- 7) 連 数 : 3容器/試験区
- 8) 供 試 生 物 数 : 60個体/試験区 (20個体/容器)
- 9) 試 験 温 度 : 卵・胚期; 24±1 °C  
仔魚・稚魚期; 23±2 °C
- 10) 溶存酸素濃度 : 飽和濃度の60%以上 (エアレーションなし)
- 11) pH : 試験液のpH調整なし
- 12) 照 明 : 室内光, 16時間明 (1000 lux以下) / 8時間暗
- 13) 給 餌 : 仔魚・稚魚期に飽食量給餌
- 14) 分 析 法 : 高速液体クロマトグラフィー (HPLC)

試 験 結 果 :

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果、測定値の設定値に対する割合は、暴露期間を通じて 71～106%であった。また、各試験液の被験物質濃度はいずれも平均測定値の±20%以内に維持された。

2) 最小作用濃度 (LOEC) : 0.0125 mg/L

3) 最大無作用濃度 (NOEC) : 0.00417 mg/L